

取り出し体験で得た真珠のアクセサリ化と販売までの記録 — 産・官・学の連携事業を通じて —

白坂 文

我々が真珠のジュエリーやアクセサリを想像する時、それに使われている真珠の多くは、光沢があり真円であるが、そのような真珠は日本の養殖真珠全体の10%～20%程度である。

真珠の価値基準は「テリ、マキ、形、サイズ、色、キズ」とされており、これらが満たされている真珠は一級品として評価され高額で取引されるが、それ以外の真珠にも二級品、三級品というカテゴリーがある。また、商品になりにくい真珠も存在する。

今回、我々は三重県志摩市の協力により本学科1年生全員が養殖真珠の取り出し作業を体験した。そこで採取された真珠は業界的には一級品に位置付けられない真珠であったが、学生たちはそこに個性を見だし、若い感性でアクセサリとして活用できないか検討した。その結果、ファッションデザインコース2年生が企画・立案・制作に携わり、心斎橋オーパに於いて真珠アクセサリのポップアップショップを出店することに決定した。

キーワード；アコヤ真珠，養殖真珠，アコヤ貝，パールアクセサリ，産官学連携

1. はじめに

本学と三重県志摩市は2019年4月に包括連携協定を締結し⁽¹⁾、双方の連携は白坂(2019)が「パールズコレクション2019 in 志摩」⁽²⁾、向山(2020)が「パールズコレクション2020 in 志摩」⁽³⁾で報告してきた。

2021年度は開催地を志摩から大阪に移し、「パールズコレクション2021 in 大阪」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。

しかし、その翌年である2022年度は規模を縮小しつつも「パールズコレクション2023 in 大阪」⁽⁴⁾を念願であった大阪の地で開催する等、コロナ禍が明けて以降は再度、志摩市と本学の連携が再開できた。

2023年度は、志摩市の地場産業である養殖真珠をキーワードに、それに関わる生産者の取り組みを知ることにより、学生たちの視

野を広げ、自身のキャリアに向き合うきっかけ作りを目的に、志摩市水産課(以下、水産課)と立神真珠養殖漁業組合女子部(以下、立神真珠女子部)の協力により、本学に於いて養殖真珠に関する講義及び真珠の取り出し作業を体験した。

本著では、真珠の取り出し体験で得た真珠を心斎橋オーパでアクセサリとして販売した産官学連携の取り組みについて報告する。

2. 志摩市と本学の産官学連携

2.1. 2019年度

「パールズコレクション2019 in 志摩」を志摩スペイン村ホテルで開催した。ここでは“高価”、“冠婚葬祭のイメージ”、“年配のつけるアクセサリ”という若者に対して縁遠いイメージの真珠を、若者が若者らしく着こなすファッションショーと、志摩の名産であ

るアコヤ真珠をウェディングドレスやカラードレスにコーディネートするドレスショーを行った。

また、アコヤ真珠を使用したネイルアートデモンストレーション⁽⁵⁾や、「志摩と真珠～次世代へのメッセージ～」というシンポジウム⁽⁶⁾も同日開催し、ファッションショーは翌日、志摩スペイン村エスパーニャ通りでも開催した。

2.2. 2020 年度

「パールズコレクション2020 in 志摩」では、“パールウェディング”をテーマに、本学科の製菓クリエイトコース（以下、製菓コース）、ファッションデザインコース（以下、ファッションコース）、ブライダルデザインコース（以下、ブライダルコース）、ビューティーデザインコース（以下、ビューティーコース）の学生がそれぞれコースの特色を活かして関わり、パールウェディングをつくりあげた⁽⁷⁾。各コースの担当した内容は表1のとおりである。

2020年度は「パールズコレクション2020 in 志摩」を開催するにあたり、志摩の養殖真珠についてより学びを深めたいという学生の思いから、先行研究としてファッションコース2年生が2020年9月12日、13日と志摩市の英虞湾^{あごわん}を訪れた。

学生たちは英虞湾^{あごわん}に浮かぶ養殖筏^{いかだ}に乗り、



写真1. 養殖筏から稚貝を見学



写真2. 母貝の掃除と生死の選別

表1. 各コースの担当内容

コース	担当内容
製菓	ウェディングケーキのデザイン・制作
ファッション	ブライズメイド衣装の制作 フォトブースのデザイン・制作 ブライズメイドモデル
ブライダル	パールウェディングショーの企画・進行
ビューティー	新郎新婦やモデルのヘアメイク

海中に吊るされている真珠籠^{かこ}の稚貝の様子を見学し（写真1）、作業所で行われている母貝の掃除と、貝の生死の選別をされている養殖業者の方に話を聞いた（写真2）。

学生たちは「真珠ができるまでどれくらいの期間がかかりますか?」、「この仕事をしていて、どんな時が嬉しいですか?」、「真珠を養殖していて一番大変なことは何ですか?」等の質問をした。養殖業者の方は学生に分か



写真 3. 真珠講座の様子



写真 4. 真珠プレスレット制作の様子

りやすく回答して下さり、最後に「丹精込めて育てているアコヤ真珠の稚貝が今大量に死んでいる。貝の掃除をしているが、ほとんどの貝が死んでいて廃棄するのが本当に悲しい。」と話された。

見学した時期はちょうどアコヤ貝の稚貝の斃死が全国的に大量発生しており、英虞湾もその影響を受けていた⁽⁸⁾。母貝の掃除の際、貝が死んでいるものを見分け、死んでいる貝は廃棄することになる。この話を聞き、学生たちはアコヤ真珠の美しさとは裏腹に、真珠を養殖することの苦労に触れた。

続いて立神真珠にて、アコヤ真珠の講義を受講し、真珠プレスレットの制作を行った(写真3、4)。

2.3. 2021 年度

新型コロナウイルス感染症の拡大により、

予定していたイベントが中止となった。

2.4. 2022 年度

規模を縮小し、大阪に於いてキッズモデルも参加したファッションショーや、パールアクセサリーのワークショップ、志摩のクイズ大会、志摩の物産ポップアップショップを開催した。

2.5. 2023 年度

水産課の協力のもと、2023 年 12 月 6 日に三重県水産研究所の渥美貴史氏（以下、渥美氏）と立神真珠女子部の森口弘美氏、北村智美氏（以下、森口氏、北村氏）に来学頂き、志摩の養殖真珠についての講義とアコヤ真珠の取り出し作業を行った。

ここでは本学科共通科目である「キャリア基礎演習Ⅱ」と「キャリアプランニング」の共同開講で、両科目を履修している本学科1年生 80 名が参加した。先ず前半に渥美氏による養殖真珠の講義が行われ、その後学生一人一人にアコヤ貝が配布され、森口氏、北村氏の指導で真珠を取り出す作業を行った。アコヤ貝の中で真珠が育つことを知らない学生や、このようなゴツゴツした貝の中に美しい真珠が入っていることが信じられないという学生が殆どで、この取り出し体験は大変盛況であった(写真5、6、7、8)。

講義にもあったように、アコヤ真珠の価値



写真 5. 真珠講座の様子



写真 6. 真珠の取り出し手順の解説



写真 7. 真珠の取り出しの様子

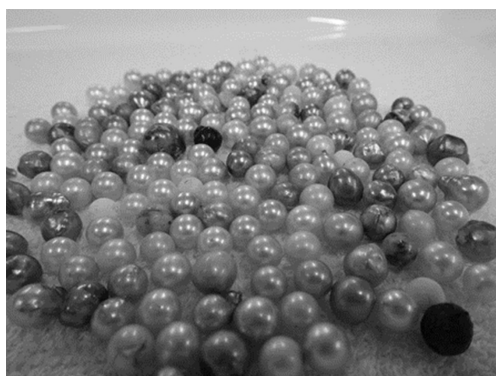


写真 8. 取り出した真珠

基準は「テリ、マキ、形、サイズ、色、キズ」での6項目であり、この6項が満たされた真珠は、一級品として高額で取引される。しかし、光沢が不足したり完全な真円ではないというように、不足不備があるために一級品に

なれない真珠も存在する。

真珠といえば、白く光沢があり真円をイメージしていた学生たちだが、自身で取り出した真珠は青みがかかっていたり、角のような突起が出ていたり、楕円であったり、表面が凸凹していたり、様々な個性があることを発見した。真珠は自然が生み出した産物で、同じものは一粒として無いことを知り、真珠がアコヤ貝から出てきたときの喜びや感動を味わっていた。

ここで取り出した真珠約140個は、学生たちの学習の一環として役立ててもらいたいと志摩市の計らいで本学に譲渡され、この個性的な真珠を多くの人々の目に届ける試みをしてはどうかと検討を始めた。その結果、アクセサリー制作の技術があるファッションコース2年生に引継ぎ、パールアクセサリーとしてデザイン・制作し、心斎橋オーパで販売することに決定した。

3. 心斎橋オーパとの連携

ファッションコースの学びの中で、アパレルの企画、デザイン、縫製は勿論であるが、商品のディスプレイ、VMD、接客等に関しても、ファッションデザイン実習室内にある模擬ショップを活用して実践的に学んでいる。その学びを活かし、学習成果の発表として2020年度より心斎橋オーパ(以下、オーパ)とも包括連携協定を締結し⁽⁹⁾、学生がデザイン・制作したアクセサリーや小物を学生が



写真 9. オーパ小松氏による本学での講義

オーパの売り場に立ち販売してきた。

2022 年度からはオーパの館内見学と、テナントの店長による販売の心得を聞く研修や、オーパの営業や販売促進の方々を本学に招き講義をして頂くというように、双方で授業を実施している（写真 9）。2023 年度の学習成果の発表は、2024 年 2 月 10 日にパールアクセサリーのポップアップショップを出店

することに決定した。そのため、急遽ファッションコース 2 年生がオーパに於いて研修を行い、パールアクセサリーのデザイン案をオーパ営業の村上裕紀氏、小松雪音氏（以下、村上氏、小松氏）に提案した。表 2 はオーパで実施した研修のタイムスケジュールである。

表 2. 心斎橋オーパでの研修スケジュール（※オーパ小松氏提供）

時間	大阪夕陽丘学園短期大学さま	テナント店長さま	補足事項
13:00	大阪夕陽丘学園短期大学さま 到着 @ きれい館B2 会議室		
:15	オリエンテーション (～13:30)		オリエンテーション(15分程度)今日の流れ・館内ルール説明等
:30	館内視察 自由解散 (～14:00)		
:45			
14:00	きれい館にて店長講義 14:00集合・14:05開始 15:00終了	【MilaOwen】14:10～14:20質疑:14:20～14:25	MilaOwen14時集合 SNIDEL→14時15分集合 AZUL→14時半集合
:15		【SNIDEL】14:25～14:35 質疑:14:35～14:40	
:30		【AZUL】14:40～14:50 質疑:14:50～14:55	
:45			
15:00	商品検討（終わり次第ㄹ）		
:15			
:30			
:45			

店長さまのお話内容
・業務上の経歴(何年目か、役職は、今の役職迄の流れ、社内表彰歴)および業務内容 ・接客しているときに気をつけていること(一般的な内容+心斎橋Ver) ・顧客さまの捕まえ方(自分流+心斎橋Ver) ・心斎橋オーパで働く上で気を付けていること ・心斎橋(自分が経験した職務地との比較など)の客層、トレンド、縦売れする商品 ・商品を沢山売ること、自分に(会社にブランドに)どのような効果があると思って働いているのか or なんのために売っているのか(売り上げを取りたいのか) ・売れないことで生じるマイナスポイントはなにか。売れないとお店・ブランド・会社がどうなるか

4. パールアクセサリーのデザイン検討

オーパでの研修以降も村上氏と小松氏が本学を数回訪れ、学生と販売商品についての検討や改善点の議論を重ねた。この際、学生から出た意見を要約し、以下にまとめた。

- ・今回ファッションコースがショップを出す場所は、不特定多数の通行人が行き交う場所なので、多くの人が店舗の前で足を止めてくれる可能性がありそう。
- ・何気なく通りすがりに来店するお客さんがいると思うのでそのお客さんを捕まえない。

- ・購買客層は20代から30代と比較的若そうだ。
- ・自身の求めているものが特に無くても“かわいい！”と思ったものがあれば買い求めてくれそう。
- ・「かわいいもの」もあれば「かっこいいもの」もあるように、様々なバリエーションのアクセサリーを制作する方が購入してもらえそう。
- ・オーパといえば女性客が圧倒的に多いイメージがあるけど、男性客もいるので、男女ともにつけられるアクセサリーがよさそ

表3. 制作するパールアクセサリーのイメージ案

(※①～⑨の出典は参考および引用末に記載)

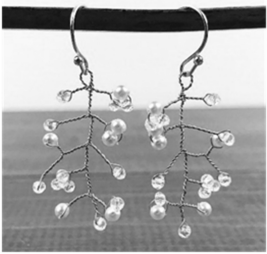
		
①小枝ピアス	②リボンつきネックレス	③ユニセックスパールイヤークフ
		
④パール×チェーンブレスレット	⑤揺れるパールピアス	⑥ユニセックスパールネックレス
		
⑦一粒真珠イヤークフ	⑧皮ひもブレスレット	⑨パール×チェーンピアス

表 4. 学生考案のパールアクセサリ



写真 10. ポップアップショップの様子



写真 11. 制作した商品を紹介する学生

う。

- ・ポップに真珠を取り出している様子の写真を載せたりして、大阪夕陽の取り組みをアピールしたら良いと思う。

これらの意見より、学生たちが制作したいと考えるアクセサリのイメージを SNS を活用し抽出した（表 3）。

5. アクセサリー制作と販売

表 3 のイメージ画像を参考に、1 年生が取り出した真珠を用いてオリジナルのパールアクセサリを制作した（表 4）。ワイヤーやチェーン、リボンといったカジュアルな素材を真珠と融合させたところが学生らしいアイデアである。ファッションコース 2 年生は 10 名と少数であるが、1 人 10 点は商品を作成することと決め、合計 100 点以上のアクセサリを完成させた。

学生たちは 1 年生後期科目である「ファッションアドバイザー実習」で販売に関する接客やマナーを、「ディスプレイ実習」で店舗

や商品展示の技術を学んでいるため、制作したパールアクセサリのディスプレイや、お客様に購入商品をお渡しする際のロールプレイングを自主的に行い、2024 年 2 月 10 日のポップアップショップに向けて最終確認を行った。写真 10、11 はオーパでの販売の様子である。

6. ポップアップショップの感想

ポップアップショップを終え、学生たちの感想を要約したものが以下である。

- ・自分たちが考えて制作したアクセサリをお客様に買って頂けて本当に嬉しかった。自分が作ったアクセサリをお客様が手に取って下さった時は本当にドキドキした！
- ・大阪夕陽丘短大の卒業生だという人に、こんなことをやっているの？ 凄いいね！と声をかけられて嬉しかった。
- ・形はいびつだけど個性のある真珠を商品として生まれ変わらせた経緯をお客様に説明できて、凄く良いことをしているねと言わ

れて嬉しかった。本当に良いことだと思うので、今後もこのようなSDGsの取り組みができれば良いと思う。

- ・今回私たちが使った真珠がまん丸ではない不揃いなところが若い人たちに気に入ってもらえたと思う。カジュアル感が出て、かしまった感じがないので、気軽に付けてもらえと思った。
- ・自分たちの作ったアクセサリーが可愛すぎて、自分達でも買いたいほど気に入っている。
- ・学校で物作りはするけど、学外で販売が出来るなんて思わなかったし、心斎橋オーパは普段私も買い物に来るところなので、こんな場所で販売ができるなんて信じられなかった。
- ・親や友達もたくさん買いに来てくれたし、先生方も来て下さって、商品を買って下さったのがとても嬉しかったです。
- ・私は卒業後、アパレルの販売員になるので、オーパでの販売の経験がとてもためになった。なかなか自分から声を掛けることができず苦戦したので、就職したらもっと頑張ろうという気持ちになった。
- ・一級品ではない真珠がどうなっていくのかということをもっと研究したかった。過去の先輩たちのように、私たちも志摩に行って養殖業者さんにアコヤ貝の今の状況などを聞いてみたかった。そうすることによって、アクセサリーのデザインにもっと生産者の方々の思いを込めることができたかもしれないと思った。
- ・1年生が取り出した真珠は色も様々で、形も楕円形や角がついているのもあって、とても個性的だった。そんな個性豊かな真珠をアクセサリーに使えたところに凄く愛着が沸いた。オンリーワンのアクセサリーが作れたと思います。

7. まとめ

学生たちはオーパでの販売に充実感と達成感を感じており、学生自身でデザイン・制作したものを販売できたことに大きな喜びを得ている様子が分かる。オーパでのポップアップショップが後期授業終了後の2月であったため、商品制作や販売についての反省点、今後の課題についての議論はレポートの作成にかえるしかなかったことが残念である。ここで得られた経験は短大の2年間という短い期間の中で、大変濃い学びの集大成となったことであろう。

後日談にはなるが、オーパでのパールアクセサリー販売と学生の感想を踏まえ、このように一級品ではなく商品になりにくい真珠や、貝の掃除で見つかった、死んで廃棄されるアコヤ貝等を再利用し、今後本学科でも何か協力できることがあるのではないかという思いを、立神真珠女子部の森口氏に伝えた。2章でも述べたように、現在もアコヤ貝の稚貝の斃死の影響なのか、英虞湾でのアコヤ真珠の採れる量がかなり減少しており、このことは愛媛県の宇和海沿岸でも、5年前から真珠の養殖に使われるアコヤ貝が新種のウイルスの影響で大量死する被害が続いていると報告されている⁽¹⁰⁾。

立神真珠女子部でもアコヤ真珠の利用方法として、一級品ではないが、出荷できなかった真珠をアクセサリーとして制作・販売しており⁽¹¹⁾、それにも満たない粗悪真珠に関しては、志摩の真珠の品質を厳守するためにも、安価であっても外に出回らないように譲渡は禁止されているとのことで、粗悪真珠は真珠体験でフォトフレーム制作等に使用している⁽¹²⁾。

また、アコヤ貝の中で捨てられる貝肉を再利用し、「パールコンポスト⁽¹³⁾」と呼ぶ堆肥の生産に力を入れたり、真珠層を剥がして粉碎し、真珠パウダーにして化粧品やシャンプーに使用したりと⁽¹⁴⁾、行政や養殖業者、

企業が持続可能な開発目標（SDGs）に沿った取り組みを行っている。

アコヤ貝に関しても、螺鈿細工やシェルボタンとして加工が可能のため、中国等に高価で買い取られ、現在では廃棄するものがほぼ無いとのことである。

この話を聞き、アコヤ真珠の生産地では商品になりにくい粗悪な真珠、貝肉、アコヤ貝も全て余すことなく再利用していることが分かった。今後、英虞湾^{あこわん}の養殖真珠の生産量が増加した際には一級品のアコヤ真珠の量も増え、アコヤ貝や商品になりにくい、二級品、三級品の真珠や粗悪真珠の量も増えることから、2023年度の本学科の取り組みのように、真珠やアコヤ貝の様々な加工等の協力が可能かもしれない。しかし現在は生産地で全て消費されているため、我々が協力できることは無いといえる。では我々は今後、どのようなことができるのか。それは微力ながらこのように志摩の生産者の苦労や取り組みを、様々な形で伝えていくことにあるのではないかと考える。

本学は2019年度より志摩市と、2020年度よりオーバと連携を続けてきた。今回、学生たちの手によって取り出したアコヤ真珠を使用し、本来であれば商品にならない真珠をアクセサリとして生まれ変わらせ販売できたことにより、「産」の心齋橋オーバ、「官」の三重県志摩市、「学」の大阪夕陽丘学園短期大学、まさに産官学の連携が実現した。今後もこの連携を継続し、志摩のアコヤ真珠を広める一助となるよう学生と共に活動を進めていきたいと考える。

謝辞

平素より本学の教育に多大なるご理解を頂き、パールズコレクションや様々なイベントにご協力下さいました三重県志摩市水産課様、三重県水産研究所渥美貴史様、立神真珠養殖漁業協同組合女子部様、その他多くの関

係者の皆さま、そして心齋橋オーバ様には心より感謝申し上げます。

参考および引用

- (1) 本学 HP「三重県・志摩市と包括連携協定を締結しました！」
<https://www.o yg.ac.jp/js/2019/04/%e4%b8%89%e9%87%8d%e7%9c%8c%e3%83%bb%e5%bf%97%e6%91%a9%e5%b8%82%e3%81%a8%e5%8c%85%e6%8b%ac%e9%80%a3%e6%90%ba%e5%8d%94%e5%ae%9a%e3%82%92%e7%b7%a0%e7%b5%90%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f%ef%bc%81/>
- (2) 白坂文・向山久子・千田啓互・齋藤耕一・山口眞理・青山佐喜子（2019）「産官学連携の記録～パールズコレクション 2019 in 志摩を一例として～」大阪夕陽丘学園短期大学紀要第 62 号 pp61～pp67
- (3) 向山久子・白坂文・千田啓互・齋藤耕一・山口眞理・青山佐喜子（2020）「産官学連携の記録「パールズコレクション 2020 in 志摩」」大阪夕陽丘学園短期大学紀要第 63 号 pp101～pp107
- (4) 本学 HP「パールズコレクション 2023 in 大阪 おとっしやよ～志摩気分！」
<https://www.o yg.ac.jp/js/2023/01/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%82%BA%E3%82%B3%E3%83%AC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B32023-in-%E5%A4%A7%E9%98%AA-%E3%80%8C%E3%81%8A%E3%81%A8%E3%81%A3%E3%81%97%E3%82%83%E3%82%88%E3%81%89/>
- (5) ネイルアートデモンストラーション担当 天白麻耶ブログ
<https://ameblo.jp/nailsalon-glitter/entry-12440884444.html>
- (6) 志摩市 NEWS（PRESS）RELEASE

- https://www.city.shima.mie.jp/material/files/group/3/2019_1_25_9-1.pdf
- (7) 志摩スペイン村ウェブサイト「パールズコレクション 2020 in 志摩」
<https://www.parque-net.com/blog/?p=6259>
- (8) 朝日新聞デジタル「三重の真珠守る」アコヤガイ稚貝の大量死、県が新施策」
<https://www.asahi.com/articles/ASP5J6RX5P4GONFB01H.html>
- (9) 本学 HP「イオンモール株式会社と包括連携協定を締結しました！」
<https://www.oig.ac.jp/js/2022/11/%e3%82%a4%e3%82%aa%e3%83%b3%e3%83%a2%e3%83%bc%e3%83%ab%e6%a0%aa%e5%bc%8f%e4%bc%9a%e7%a4%be%e3%81%a8%e5%8c%85%e6%8b%ac%e9%80%a3%e6%90%ba%e5%8d%94%e5%ae%9a%e3%82%92%e7%b7%a0%e7%b5%90%e3%81%97%e3%81%be/>
- (10) NHK 愛媛 NEWS WEB「真珠養殖のアコヤガイ大量死問題 今年度も生き残り例年の 7 割」
<https://www3.nhk.or.jp/matsuyama-news/20240321/8000018016.html>
- (11) 立神真珠養殖漁業協同組合女子部たてがみくみあい女子部 akoya ジュエリー「マルチカラー」パロック真珠ネックレス
<https://www.tategami-akoya-pearl.com/blog/?p=4564>
- (12) 立神真珠養殖漁業協同組合たてがみくみあい女子部「アコヤ真珠を使って世界に一つだけのフォトフレームを作ろう」
<https://www.tategami-akoya-pearl.com/blog/?p=7763>
- (13) 東京新聞 真珠養殖で捨てる貝肉を再利用 三重で「パールコンポスト」SDGs を意識
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/227700>
- (14) I2N アイ・ツー・エヌ 志摩乙女
<https://www.shimaotome.com/%E5%95%86%E5%93%81%E7%B4%B9%E4%BB%8B>
- ①小枝ピアス
<https://www.partsclub.jp/store/recipe/recipeDetail.aspx?recipe=SA012>
- ②リボンつきネックレス
<https://zozo.jp/shop/wears/goods-sale/80071756/>
- ③パールイヤークフ
https://www.artidaoud.com/item/detail/1_1_12211103002/10
- ④パール×チェーンブレスレット
<https://blanc.saleshop.jp/items/43107437>
- ⑤揺れるパールピアス
<https://www.beams.co.jp/item/demiluxebeams/accessory/64440316158/>
- ⑥ユニセックスパールネックレス
<https://otte-official.shop/products/1499>
- ⑦真珠イヤークフ
<https://fashion.aucfan.com/yahoo/r377633962/>
- ⑧皮ひも×パールブレスレット
<https://www.hpearl.com/SHOP/TLBLH00901DB.html>
- ⑨パール×チェーンピアス
<https://www.bluerank.co.jp/?pid=172530950>

Records of How Pearls are Made into Accessories and Sold Through the Extraction Experience — Through Collaboration between Industry, Government and Academia —

Aya SHIRASAKA

Osaka Yuhigaokagakuen College

Abstract

When we think of pearl accessories, most of the pearls used are shiny and perfectly round. However, such pearls account for only 10% to 20% of all cultured pearls in Japan, and when pearls are made into accessories, they are usually treated with stain removal to make the color uniform and polishing to adjust the shape. It is true.

Pearls that meet the quality indicators of pearls, such as “texture, grain, shape, size, color, and flaws,” are evaluated as first-class and are traded at high prices, but other pearls are also second-class. There is a category called third-grade pearls, and there are also pearls that are difficult to sell.

This time, we experienced extracting cultured pearls from Shima City, Mie Prefecture. Although the pearls harvested there were not ranked as first-class pearls in the industry, the students found individuality in them, and with their youthful sensibilities they considered whether they could use the pearls as accessories and sell them. As a result, the second-year fashion design course students planned, planned, and produced pearl accessories that were sold at Shinsaibashi Opa.

Keywords: Akoya Pearl, cultured pearls, pearl oyster, ethical pearl,
Industry-government-academia collaboration

